

10月から始まった「定期接種」の ワクチンの種類

販売名	タイプ	供給量(見込み)
コミナティ	mRNA	約2527万回
スパイクバックス	mRNA	
ダイチロナ	mRNA	
ヌバキソビッド	組み換えたんぱく	約270万回
コスタイベ	レプリコン (自己増殖型)	約427万回

厚生労働省の発表(9月19日時点)

当に充分なのか。リスクを危惧する多くの声に誠実に応えているのでしょうか」(岡田さん)

室井さんも新ワクチンの健康被害を懸念する。「レプリコンワクチンは体内の免疫反応を引き起こす抗原を長期間作り続ける構造なので意図しない形で免疫反応が持続し、従来のワクチンより重い健康被害が出る恐れがある。海外の論文ではmRNAが自己増殖する過程で、想定外のエラーや突然変異が起こる可能性も指摘されています」

さらに、「シエディング(伝播)」と呼ばれる現象も指摘されている。

これは、ワクチンを接種した人の呼吸や汗腺などから排出(spread)された何らかの毒素を吸い込むことで、未接種者にも影響が及ぶ可能性を指す。

日本看護倫理学会は、緊急声明でこう訴えている。「レプリコンワクチンが「自己複製するmRNA」であるために、レプリコンワクチン自体が接種者から非接種者に感染(シエディング)するのではないかとの懸念があります。すなわちそれは、望まない人にワクチンの成分が取り込まれてしまふという倫理的問題をはらんでいます」

現在、シエディングを指摘する声は日本看護倫理学会ほか医療従事者の一部からも上がり、伝播を防ぐため、接種した患者を「立ち入り禁止」にするクリニックも登場するほどの過敏な反応も起きている。

そうした中、同学会が危惧するのは、新しいワクチンであるゆえに未知の部分が少なくない「レプリコンワクチン」を、そうとは知らずに、あるいは同調圧力によって接種する人、特に医療従事者が出てくる危険性だ。声明文には次のような文言で周知している。

《従来のmRNAワクチン

接種の事例を鑑みますと、ひとたびレプリコンワクチンが定期接種化されれば、医療従事者は率先して接種すべきであるとの世論や医療機関の方針が打ち出されることは想像するに難くありません。患者を守るために医療従事者が感染経路とならないようにするという大義名分のもと、医療従事者自身の主体的な自己決定権が脅かされることがあつてはなりません。

また、レプリコンワクチンは、自分のみならず、非接種者の家族や周囲の人々にまで影響を与える可能性がある中で、接種しなければならぬ状況に追い込まれることは絶対にあつてはならないことだと考えます」

岡田さんが続けて語る。「遺伝子操作するレプリコンワクチンやmRNAワクチンは、将来的ながんの発生などを見据えた長期的な監視が必要です。少なくとも、レプリコンワクチンにはさらなる治験や動物実験が欠かせません」

もし接種するならば 種類は必ず聞け

打つべきか、打たないべきか——新型コロナが5類に引き下がったいま、私た

ちは新たな決断のときを迎えているが、岡田さんは「いまの状況では打つ必要はない」という立場だ。

「新型コロナウイルスは時間の経過とともに重症化率が下がり、感染率が少し上がって普通の風邪になっていきます。なので、風邪と同じく異変を感じたら自主的に休めばいい。mRNAワクチンはさまざまな副作用が指摘され、接種すると感染率が上がるとのデータもある。接種する方が未接種よりリスクが高いとする向きもあります」

室井さんも「定期接種の対象者全員が打つ必要はないのでは」と話す。

「コロナが流行した20年頃に比べるとワクチンを何度か打ち、免疫力がついた人が多くなりました。今後は持病があつて健康リスクが高い人や、それらの人に接触する人たちに接種を絞ることが必要です」

いまやコロナはインフルエンザより症状が軽いケースが多いのにワクチンの自己負担は最高7000円で、インフルエンザワクチンより数千円高い。費用対効果の面でも、対象者全員が受ける必要はないと思えます」

実際にワクチン接種を行

うT.I.C.谷口医院院長の谷口恭さんは、「接種するとしたら、レプリコンワクチンとは別の選択肢を先に検討すべきと考えています」と言う。

「いまは21年のように病床が逼迫しているわけでもなく、コロナ治療薬も複数あります。もはやワクチンが唯一の「武器」ではないのです」。

打つにしてもレプリコンワクチン以外に3社のmRNAワクチンのほか組み換えたんぱくワクチンがあるので、それらを優先するという考え方もあります」

10月からの定期接種で供給される約3224万回分のワクチンのうち、レプリコンワクチンは約427万回分。接種を希望する人は、どのワクチンを希望するかを考えておくべきだという。「病院やクリニックの担当医に聞けば、どのワクチンを用意しているか教えてくれます。当院は、重症化リスクが高く、本人が希望するかたにのみ、コミナティもしくはヌバキソビッドのワクチンを接種する予定です」(谷口さん)

日本でだけ認可されたワクチンはどんな結果をもたらすのか。世界中が固唾をのんで見守っている。